

令和3年度 第1回奈良県学校・地域パートナーシップ事業 地域学校協働活動推進員等連絡会 実施報告書

- 1 日時 令和3年12月3日(金) 【第1部】10:00~12:00 【第2部】14:00~16:00
- 2 会場 奈良県立教育研究所 中講座室1, 2
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域学校協働活動推進員等 計89名
- 4 内容 10:00~10:05/14:00~14:05 開会
10:05~10:35/14:05~14:35 実践報告「やまびこネットワークの活動を振り返って」
生駒市市民自治協議会「やまびこネットワーク」
代表 清水 泰之(生駒市立壺分小学校学校運営協議会委員)
10:40~11:55/14:40~15:55 情報交換・意見交流「学校と地域との連携・協働を進めるために」
11:55~12:00/15:55~16:00 閉会

5 実践報告の概要

「やまびこネットワーク」が組織化される経緯や「あいさつ運動」を中心に「子どもフェスタ」「落ち葉で秋の体感保育」等の活動をおして、学校と連携を図りながら、まちぐるみで子どもたちの育成に取り組んでおられる活動について実践報告いただいた。

- ・ 私たち「やまびこネットワーク」の活動で基本姿勢としていることは、一人一人の感動を大切にしようということである。その感動を共有し合って、組織化し、協働活動へつなげていくという流れを大事にしている。
- ・ あいさつ運動が始まったのは、2004年の奈良市で起きた児童に対する痛ましい事件を受けて、「今まで地域で子どもを守ることを考えてきたが、これからは学校と地域が協働して子どもを育てることを目指していく必要がある。そのためには、地域の教育力向上を図らなければならない」と課題提起されたことがきっかけである。
- ・ あいさつ通りを指定して「あいさつ運動」を始めたが、なかなか地域全体の共感を得ることはできなかった。しかし、東日本大震災をきっかけに「あいさつ」でつながりのある町をつくろうという気運が高まり、地域の共感を得ることができた。そこで小学校区で組織づくりを始め、16団体(組織)の協力を得ることになった。
- ・ 子どもたちにも「あいさつ運動」に参画してもらいたいという思いから、学校の協力を得て、子どもたちに「あいさつ運動」を実施する呼び名を考えてもらい、毎月8日は「ニコニコあいさつデー」と決まった。「あいさつ運動」に子どもたちも参画することで、学校・家庭・地域が一体となった「あいさつ運動」を展開していくことができた。
- ・ 私たちが「あいさつ運動」で大切にしていることは、「あいさつ通りは教室である」ということだ。子どもも大人も共に学び合う場が「あいさつ通り」という考え方を大事にしている。あいさつに一声(今、学校でどんな勉強しているの?等)を添えることで、子どもとのつながりをつくっている。
- ・ 今後の課題としては、コミュニティ・スクールへのより深い理解と連携を考えていかなければならないと思っている。そのためにも「やまびこネットワーク」がコミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な推進のためにどのような関わりができるのかを考えていきたい。



6 情報交換・意見交流(テーマ:学校と地域との連携・協働を進めるために)

ワークシートを用いて、各所属における学校と地域との連携・協働状況を点検し、グループで情報交換しながら、自身の所属において、学校と地域との連携・協働を進めていくために何が必要なのかを考えた。また、実践報告等を踏まえて、学校と地域との連携・協働を進めるために大事だと思うことを意見交流しながら、セルフチェック表に新たなチェック項目を加える内容についてグループで考えた。

- ・ 卒業生がボランティアとして活躍している所属があることを知ったので、新たなボランティアを探す参考にできると思う。
- ・ 様々な団体が地域学校協働活動に関わっているが、各団体での活動内容を共有する場が必要だと感じた。
- ・ 地域学校協働活動が進んでいると感じる地域は、地域が主体となって自主的な活動を進められていると感じる。

7 感想

- ・ 定期的な連絡会の開催はありがたいです。学校運営協議会や地域学校協働本部での会議の議題の参考になる。
- ・ コーディネーターが知るべきこと、知りたいことなどの研修と情報交換の両方を短時間で企画して下さってありがたかった。
- ・ やまびこネットワークの活動は大変参考になった。地域の小学校でもあいさつに力を入れておられるので、コーディネーターとして協働活動を目指していきたい。
- ・ 実践報告が具体的でわかりやすかった。コーディネーターとしての役割を再認識できた。

